

Title	Experimental Studies on Attitude of Dogs with Regenerated Liver Against Hemorrhagic Shock(Abstract_要旨)
Author(s)	Tsuji, Masahiko
Citation	Kyoto University (京都大学)
Issue Date	1966-06-21
URL	http://hdl.handle.net/2433/211914
Right	
Type	Thesis or Dissertation
Textversion	none

氏 名	辻 政 彦 つじ まさ ひこ
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 記 番 号	論 医 博 第 310 号
学位授与の日付	昭 和 41 年 6 月 21 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学 位 論 文 題 目	Experimental Studies on Attitude of Dogs with Regenerated Liver Against Hemorrhagic Shock (肝再生犬の出血ショックに対する態度)
論文調査委員	(主 査) 教 授 本 庄 一 夫 教 授 木 村 忠 司 教 授 半 田 肇

論 文 内 容 の 要 旨

近年肝悪性腫瘍等に対し肝広汎切除が広く行なわれるようになるにつれ、再生肝の病態生理が臨床的にも一段と注目されるようになった。肝切除後の残存肝は漸次高度の肝障害に陥るにもかかわらずよくそれに耐え著しい肝再生を行ない、その重量は急速に切除前値に接近する。

一方今日では生体に加えられる侵襲に対し肝が最も重要な役割を演ずる臓器の一つであることは、よく知られた事実である。されば肝障害に耐え著しい再生を行なった再生肝は再び侵襲が加えられた場合、正常肝に比し抵抗性の亢進或いは減弱などの特異性を示すか、否かは興味ある問題である。かかる観点から50%肝切除により作成した肝再生犬及び正常犬を用い、著しい肝障害をもたらす出血ショックを Wiggers 法及び Lamson 変法により作成し、再生肝の病態生理の一面を窺わんと意図し次の様な結果を得た。

1) Wiggers 法による出血ショックに於て、肝再生犬群、対照犬群の間に最大出血量、12時間及び24時間生存率に関して、何ら有意の差異を認めなかった。

2) Lamson 変法による出血ショックに於て15%自然還血期返血を行なった群では、対照群肝再生犬群の何れも全て24時間以上生存し、30%自然還血期返血を行なった群では、対照群、肝再生犬群の何れも全て24時間以内に死亡した。

3) Lamson 変法に於ける15%自然還血期返血群及び30%自然還血期返血群の何れに関しても、最大出血量、最大出血到達時間、自然還血開始時間、15%及び30%自然還血期到達時間、12時間及び24時間生存率に於て、気温、気候及び性別による影響を考慮しても、肝再生犬群と対照犬群との間に有意の差を見出すことが出来なかった。即ち出血ショックの可逆相、不可逆相に於ける両群の態度には有意の差異を認めなかった。

4) 門脈圧は肝再生犬群に於ては、出血前値に於ても、出血により下降した門脈圧の返血後回復率に於ても、対照群に比しやや高値を示し門脈系血管抵抗のやや大なることを示唆した。

5) ヘマトクリット値の推移は肝再生犬群と対照群とはほぼ同様の傾向を示し有意の差異を認め得な

った。

6) 以上により肝再生犬は出血ショックに対し正常犬と同様の態度を示し、正常犬に比し明らかにショック耐性を有するとは言えないまでも、決して劣るものではないと言える。

論文審査の結果の要旨

肝切除後の再生肝は生理学的機能を営む点については正常肝と有意の差は認められておらない。しかし外部から加えられた侵襲に対しては正常肝同様の態度を示すか否かについては明らかでない。著者はこの点を追究するため、再生肝を50%肝切除により作成し、著しい肝障害をもたらす出血ショックを Wiggers 法および Lamson 法で試みた。

その結果、1) Wiggers 法では肝再生犬群、対照正常犬群の間に最大出血量、12時間、24時間生存率に有意の差はなかった。2) Lamson 法では15%ならびに30%自然還血期返血を行なった場合、両群とも前者では24時間生存し、後者では24時間以内に死亡した。3) Lamson 法では15%ならびに30%自然還血期返血の場合の最大出血量、最大出血到達時間、自然還血開始時間、それぞれの自然還血期到達時間、12時間および24時間生存率において、気温、気候および性別の差を考慮しても両群に有意の差を認めがたい。換言すれば出血ショックの可逆相、不可逆相における両群の態度はほぼ同様である。

以上、著者は再生肝が出血侵襲に対し、正常肝とすくなくとも同等の抵抗力を示すことを証明したもので肝外科に寄与するところがある。

本論文は学術上有益にして医学博士の学位論文として価値あるものと認定する。